

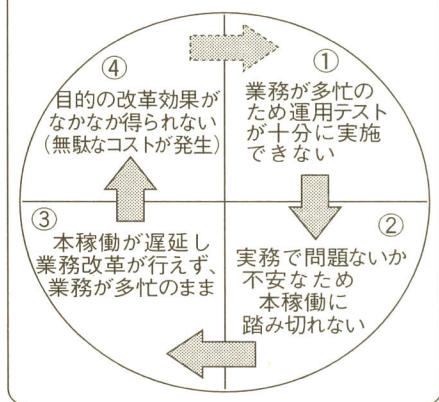
リスク管理

多額の費用を投じて、業務改革を実現するため必要となる情報システムをITベンダーに委託し構築したが、なかなか本稼働まで進まなず、結果的に業務改革自体が遅延してしまう。多かれ少なかれ、こんな経験をした企業が少なくないのではないだろうか。

◇

情報システムの本稼働

情報システムが本稼働しない負のスパイラル



がつかなくなってしまうのである。

が潜んでいるのである。情報システム構築プロ

このような場合、一般的にプロジェクト責任者や経営層が選択する措置としては、本稼働予定日を延期し、利用部門が実務的なテストを実施するための十分な時間を準備することである。しかし、利用部門は相変わらず日常業務に追われてなかなかテストをする時間が取れない。よって本稼働が遅延し、当初想定した十分な業務改革効果が発揮できず、更に開発委託先に対しても追加費用等が発生する可能性がある。改革できない利用部門もいつまでも多忙な状態が続くというように、結果的に負のスパイラルに陥るというリスク

情報システムの構築

リスクマネジメント

ABC

一般的に情報システム開発のプロジェクトでは、情報システム部門などが中心となり、企画段階から社内の利用部門を巻き込んで進めていく。プロジェクトではテストの段階が進むにつれ、より利用部門のかかわりは重要になってくる。特にテストの最終段階では、より実務に沿った形で

テストの実施が必要になり、この段階における問題の発生度合いにより、最終的な運用可否を決定するのが一般的だからである。よって、もしこの段階で、利用部門が十分に関与できない場合、実務に則したテストができないため、そもそも本稼働に情報システムが耐えうるかどうかさえ、判断

利用部門の関与が必須

の業務改革の重要な役割ではないだろうか。

(日本総合研究所)